

地球にある水のほとんどは海水で、私たちが使える淡水は全体の2.5%。しかも南極や北極で凍っていたり、地中深くにあったりして、人間が実際に使用できる水は、地球の水全体のわずか0.01%。「もったいない」という目で水利用を見直しては？

文＝橋本淳司(ジャーナリスト)

毎日使うからこそ 水の3Rをを考えてみよう

水

危機が深刻の度合いを強めている。イギリスに本拠を置くNGO団体「インターナショナル・アラート」の報告では、現在、世界46カ国で27億人が水危機に苦しんでいる。日本は一見、水危機とは無縁に思えるが、ボトル水、食料、工業製品な

ど大量の水を輸入し、世界の水バランスを崩している。グローバル化が進んだ現在、水危機は地球レベルの問題であり、日本でも水利用を見直す時期にきている。考えたいのが「水の3R」。3Rとは節水(Reduce)、再利用(Reuse)、

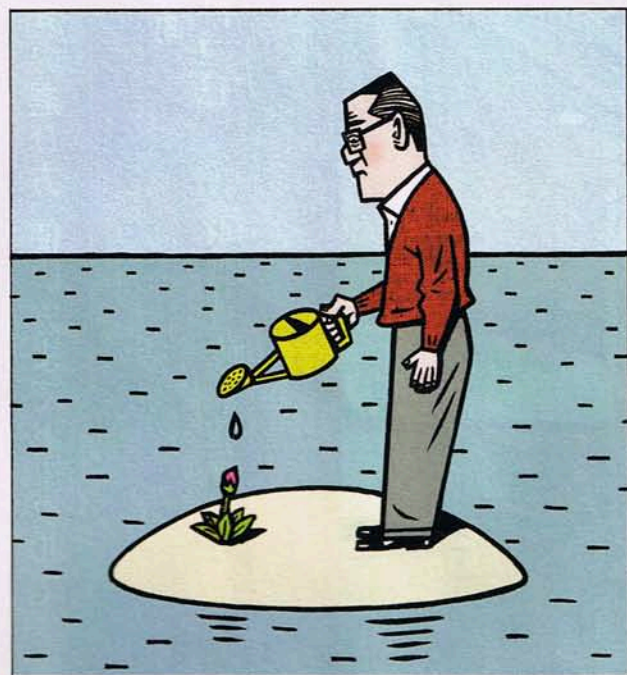
再生利用(Recycle)。

節水は各家庭でできる。水道蛇口の開け閉めに気をつけるだけで使用量は減り、家計の節約にもなる。一人ひとりがすぐにも実行できるのだが、まともと

大きな力になる。米ボストン大都市圏は1980年代半ばに水需要量が安定供給量を上回り、コネチカット川からの導水を検討したが、節水プログラムの実施により、水使用量をピーク期の31%まで減少させることができた。ポイントは市民に節水意識が根づいたことだ。

再生利用は、下水処理場から出る処理水は、日本全国で年間約130億立方メートルで、現在はそのほとんどが河川に放流されている(利用率は2%)。今後は貴重な水資源として、下水処理水が利用されるようになるだろう。ホテルや商業ビルなどの水洗トイレ用水、公園の修景用水(噴水など)、地球温暖化対策としての散布用水などが考えられる。

さらに日本は「3R」という考え方や具体的な技術ノウハウを深め、それを世界に発信する。それによって水問題に苦しむ国や地域に貢献することができ



イラスト＝浅賀行雄

再利用は、下水道に流すまえに処理し、もう一度利用すること。再生処理施設を設け、排水中の固形物やにおいをとり、塩素殺菌して供給する。

排水再利用は規模に応じて、①個別循環方式(少数のビル内で処理・再利用する)、②地区循環方式(市街地再開発地区など複数のビル排水を集中的に処

理・再利用する)、③地域循環方式(公共下水処理場の処理水を一定地域内で利用する)の3つに分けられる。いまのところ個別循環方式が多いが、今後は地域・地域循環方式も増えるだろう。

再生利用は、下水処理水を利用すること。下水処理場から出る処理水は、日本全国で年間約130億立方メートルで、現在はそのほとんどが河川に放流されている(利用率は2%)。今後は貴重な水資源として、下水処理水が利用されるようになるだろう。ホテルや商業ビルなどの水洗トイレ用水、公園の修景用水(噴水など)、地球温暖化対策としての散布用水などが考えられる。

節水でここまで節約できる

(水1ℓ=0.24円とする)出典:『おいしい水 きれいな水』

〈歯磨きの節水〉

30秒間水を流しっぱなし
約6ℓ

コップにくんで磨く
約0.6ℓ

節水量
約5ℓ

節約金額(3人家族)
5ℓ×0.24円×朝晩2回×30日×3人家族≒220円
年間節約金額…約220円
年間節約金額…約2,640円

〈洗車の節水〉

ホースからの流し洗い
約240ℓ

バケツにくんで洗う
約30ℓ

節水量
約210ℓ

節約金額(月2回洗車した場合)
210×0.24円×洗車2回≒100円
年間節約金額…約100円
年間節約金額…約1,200円

はしもと・じゅんじ
1967年、群馬県出身。ジャーナリスト、東京学芸大学客員准教授、日本水フォーラム節水リーダー。著書に『おいしい水 きれいな水』(日本実業出版社)『水問題の重要性に気づいていない日本人』『世界が「水」を奪い合う日』(PHP研究所)がある。